

高岡の図書館

第109号

2023. 9. 1

編集・発行 高岡市立中央図書館（〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7） TEL 0766 (20) 1818 FAX 0766 (20) 1819

AI時代を生きる

富山県生涯学習カレッジ高岡地区センター所長

富山県立志貴野高等学校 校長 麦谷理香

生成AI（人工知能）と呼ばれる新技術が注目を集めています。なかでも最近脚光を浴びているのが、米マイクロソフト系企業のオープンAI社が2022年11月に公開した「チャットGPT」です。対話形式で質問すると自然な文章で回答してくれ、業務の効率化や新規事業創出につながる画期的な技術です。

一方で、社会に及ぼす影響、とりわけ教育現場への影響が懸念されています。例えば、『太宰治の人間失格の読書感想文を800字以内で』といった指示にも即座に答えるため、本を読まなくても読書感想文が書いてしまい、安易に子供たちが利用しかねません。私自身もこの原稿の依頼を受けたものの、なかなか文章がまとまらず、正直なところチャットGPTに頼りたい気持ちにもなりました。このままでは、子供たちの自ら考えて文章を作成する力が育たなくなるのでは、という危機感が繰り返し報じられるのもうなずけます。

他方、学習指導要領では、「学習の基盤となる資質・能力」として、情報及び情報技術を適切かつ効果的に活用して、問題を発見したり、自分の考えを形成したりするために必要な能力である「情報活用能力」を位置づけています。今後は、新たな技術である生成AIを使いこなすといった視点も必要であることから、文部科学省では生成AIの学校現場での取り扱いについてのガイドラインを7月に公表しました。東京大学が4月に公表した見解のなかに「人類はこの数ヶ月でもうすでにルビコン川を渡ってしまったのかもしれない」とありましたが、チャットGPTはじめAIの普及は、もはや止めることができないのかもしれませんが。

では、これからの時代、私たちはどのようにAIとつきあっていけば良いのでしょうか。AIと

共存していく時に必要となるのは、AIから出された回答に対して批判的に思考する力や対人関係力、創造力、感性など人間的な部分だと言われています。中でもAIを中心に加速度的に発展し、様々な分野の環境が変化していく激動の時代において、人間だけに備わる、出来事や事象に対して深く感じ取った内容を自分らしく表現する力、感性は、感受性を備えていないAIに対して、大きな強みになると考えられます。また、私たちはAIと違い自発的に好奇心を育み、主体的に感性や情緒を磨いていくことができます。感性は、美術・音楽・映画・演劇などの芸術に触れたり様々な分野の話を聞いたりすることで新しい価値観を学ぶ、自然に触れて感覚を研ぎ澄ませる、本を読んで想像力を働かせたり様々な人の考え方に触れたりすることなどで磨くことができると言えます。

志貴野高校があるウイング・ウイング高岡には高岡市立中央図書館があり、ただ本を貸し出すだけの場所ではなく、あらゆる年代の人々が学ぶ場として、情報を発信、提供しておられます。本校の生徒も子どもの本コーナー「おはなしの部屋」で絵本の読み聞かせボランティアを行っており、表現力やコミュニケーション力を育むよい機会となっています。図書館の他にも富山県生涯学習カレッジ高岡地区センター、高岡市生涯学習センターがあり、多彩な学びの機会を得ることができます。まさに感性を磨くには最適な環境です。AI時代と呼ばれるこれからの時代は、これまで以上に人間らしさが重視されると思います。次代を担う生徒たちには、身近な図書館や生涯学習機関を有効に活用しながら感性を磨き、心豊かな生活を送ってほしいと願っています。

題字は「高岡御車山等由緒」による

芸術文化図書館の紹介

富山大学附属図書館芸術文化図書館 館長 上原 雄史

当図書館は、国立高岡短期大学に付属した芸術と文化領域に焦点をあてた図書館として開館しました。2005年に富山大学に併合し富山大学附属図書館芸術文化図書館となり、芸術文化の高等教育研究のため図書の受け入れと維持貸し出しを行ってきました。蔵書の受け入れは主に本学教員が選定してきたので、蔵書は開館後37年間の研究内容を色濃く反映しています。本学の芸術研究領域は、漆や金属など高岡の伝統や新規な工芸領域、日本画・油画・彫刻などの美術領域に加え、あたらしい複合領域などがあります。文化領域としては地域風土やものづくり経済の解明、博物館学、美学や工芸美術史を研究する地域キュレーション領域があり、意匠・計画・再生・環境・構造学などからなる建築領域がこれらに加わり人の住環境の形成に関する研究を進めています。また技藝院と工芸史・工芸技術史研究室という二つの研究機関が附属しており、文化財保存・新造形芸術研究・実物を通じての研究境域の促進に当たっていますが、ここで形成する知識の収蔵にも尽力しています。芸術文化図書館のミッションは、これらの研究とこれに基づいた教育の知識基盤の実

現であると言えます。図書館はエジプトのアレクサンドリア図書館の時代から、知識の収蔵場所であると同時に叡智の確立を求めて研究を進める研究者たちの場所でもありました。芸術文化図書館においては、研究者の出会いの場を形成する活動はこれまでミッションの再定義にあたる部分もあり、これから分節して行く領域です。

過去10年に渡り、芸術文化図書館では開館40年を目処に本学部で創出する多様な形式の知識を展示し、研究者が交流する能力の実装を目指して大規模な改修計画の策定をすすめてきました。一昨年この一部が認められて昨年の改修に至りました。これは図書館という厳密な目的性を超えた広い意味での知識の閲覧を可能にする場所の創設です。図書館一般では、仙台メディアテークやシアトルの中央図書館のように豊かな財源に支えられた図書館においては、収蔵知識を公的な目的で且つ多様な方法で公開する活動が活発になりました。しかし、芸術文化図書館のような小規模の図書館では、知識のパブリックドメインを運用する活動はこれが第一歩です。



本館入り口部分から奥の方を見渡した内観風景。絨毯と木材で全体に緩やかなまとまりを作り出している。雑誌は書店のように書架に並べ気軽に手に取ることができるようにした。

私たちはこの新しい活動の時空を「目指す場所」と題し、展示室などイノベーションコモンズとしてプログラムし実装を進めています。芸術文化図書館をパブリックドメイン化することは、収蔵する知識の形式を本学部が創出する形式に沿って流動化することと考えています。図書館は第3の形式を持った知識を収める場所という思考です。

ジャック・デリダは、知識はランゲージュもしくはエクリチュールを媒体にデセミネートし、人はこれらの媒体を介して発見するとしました。しかし、新しい展示室での試みは、言語のように線形ではなく時空に広がる非線形の知識、即ち「芸術文化」、という第3の知識形式の閲覧を可能にするということの意味しているでしょう。これは難しく聞こえるかもしれませんがね。もとより、芸術文化は、日常と非日常の拮抗や、刻一刻と刻まれる深い喜怒哀楽、未来実現のための活動基盤確立を求めるプロセスなどに現れます。ここで例えばファーブル博士が言語で記述した知識を活用するには、C.レヴィ・ストロースのようにフィールドに入り世界の再構成を試みる体験や、その時空を深く理解することが必要です。このことは、保険アナリストがベイズ理論と格闘し、教育者が成長する子どもに働きかける現場においても同じでしょう。

新しい芸術文化図書館は、言葉の枠組みでは見えにくい知識を可視化する場所を融合する機関を目指します。学生たちにとっては、この展示室は、楽器に例えると、高度すぎる優れた楽器と言えるかもしれません。しかし、この場所は、知識を正確に体系化して記録し、その成果を閲覧可能にすることができる場所です。それが故、彼らがこの第3の形式と向き合う意欲を燃やす場所となることはほぼ確実です。この作業に成功し、人がその価値を見出し涙する時、それまで言語の臨界にあり固定が困難であった人間の知識は、未来永劫到達可能な叡智として存在するでしょう。



既存階段室の下に残された空間を持って作り出したのがCラボである。この写真はCラボから玄関の方を見た風景。



展示室の内観。照明は12段階程度に調光可能になっており、金属や機械などから、柔らかな紙をつかった展示物まで様々な展示が可能になっている。

二階リーディング（閲覧室）は、キャンパスの恵まれた風景と近傍に広がる二上山などの風景を楽しめる開いた場所として作り直した。



ふるさと情報コーナー

高岡関係資料情報

令和3年度に発行された図書、雑誌及び新聞に掲載された高岡関係資料のうち、図書館で把握できた文献の一部を紹介いたします。配列はおおむね富山県郷土資料分類表に準じ、論題名・執筆者名（敬称略）・資料名・巻号数・出版年月の順に記載しました。

- 山王地区集落誌 良きふるさとを語り継ぐ (有澤 良一編刊 令和3年11月)
- だっこで愛の読み聞かせ 高岡らっこの会 20周年記念誌 (高岡らっこの会編刊 令和3年4月)
- 中田写真誌 (中田地域生涯学習推進協議会写真集発刊委員会編刊 令和3年7月)
- 創立70周年記念富山県書道連盟展 繋げ未来へ (富山県書道連盟編刊 令和3年4月)
- 緑の風にのせて 国吉小学校・国吉中学校統合記念誌
(国吉小学校・国吉中学校統合記念誌出版事業専門委員会編刊 令和3年12月)
- 創立40周年記念誌 (富山県看護教育機関連絡協議会編刊 令和4年3月)
- 高岡市史料集 第33集 長崎家資料より 逸見家文書より (高岡市立中央図書館編刊 令和4年3月)
- 高岡市万葉歴史館紀要 第32号 (高岡市万葉歴史館編刊 令和4年3月)
- 高岡中学・高岡高校同窓生群像 (25) (太田久夫編 富山県人社刊 令和3年4月)
- 万葉線「コカ・コーラレトロ電車」さよならイベント (鉄道ピクトリアル 令和3年4月)
- 高岡古城公園におけるコオイムシの記録補完 (富山市科学博物館研究報告45号 令和3年7月)
- 富山県西部域における敬語行動の変容 (砺波散村地域研究所研究紀要38号 令和3年6月)
- 佐伯安一編書「高岡の方言2集」と比較して
先行学習が生徒の「分かる」実感の獲得に及ぼす効果～中学理科の授業改革による実践を通して～
高岡市立五位中学校 (日教弘教育賞教育研究集録 令和3年6月)
- 高岡山瑞龍寺伽藍の創建過程－砺波郡との関わりにもふれつつ
(砺波散村地域研究所研究紀要38号 令和3年6月)
- 50年振り返る記録集制作 市芸文協高岡 (富山新聞 令和3年4月16日)
(北陸中日新聞 令和3年4月18日) ほか
- 名所の見どころ紹介 観光ボランティア会員向けに冊子 高岡 (北日本新聞 令和3年4月17日)
- ホテルの生態 冊子に 高岡・中田中科学部専門家監修 (北日本新聞 令和3年6月3日)
(毎日新聞 令和3年6月13日) ほか
- 5周年で記念句集 高岡の北老協川柳会 (富山新聞 令和3年7月25日)
- 5冊の本セット「ご縁ボックス」高岡市立中央図書館 (中日新聞 令和3年11月6日) ほか
- 栗林美紀(高岡市出身)さん震災からの復興に尽力 環境局参事官補佐 著書を今月出版
(北日本新聞 令和3年11月4日)
- 戦時下の高岡絵本に 小松の朝岡さん、自費出版「もっとゆかいに平和になる」
(中日新聞 令和3年12月9日)
(毎日新聞 令和4年2月24日) ほか
- 高岡・川原地区を紹介通信紙 第1号「恵比寿塔」 (富山新聞 令和4年1月1日)
- 50当時の氷見・高岡(1)元気の源 海越しの立山が力に
米国雑誌も楽しみ(記者A 漫画家 藤子不二雄A氏の記者時代) (富山新聞 令和4年2月21日)
- 万葉集の副碑設置 思いや情景解説 勝興寺門前など (北日本新聞 令和3年3月10日) ほか
- かつての町並み すぐろくで紹介 高岡立博物館 (読売新聞 令和4年3月15日)
- 林忠正の手紙翻刻 高岡出身の美術商 青年期の胸の内 地元元図書館長ら研究活用願う
(富山新聞 令和4年3月17日)(読売新聞 令和4年3月29日)(中日新聞 令和4年4月22日) ほか
- 富山県立図書館ホームページ「とやまの本」及び「県内記事情報検索」より

||||| 調査相談の窓口から |||||

…… おたずねくださいQ&A (戸出図書館) ……

図書館で提供しているサービスのひとつに、レファレンスサービスがあります。これは、図書館の資料を活用して、利用者の調査や研究を補助するサービスです。ほんの些細な疑問や質問にもお応えいたします。お気軽にお尋ねください。

レファレンスの例

Q：戸出吉住には、用水を開削した際に建碑された石碑があると聞いたが、その石碑が設置されている場所と建碑された経緯を知りたい。

A：『戸出を語る石佛・石碑』、『戸出町史』、『戸出 400 年のあゆみ』を調べる。

『戸出を語る石佛・石碑』で、戸出吉住地内に石碑が設置されているか確認。その中に「越中砺波郡吉住村灌漑鑿渠碑」の記述があり、設置されている場所は、戸出吉住地内の富山県道 353 号西部金屋戸出線と用水が交差する場所〔戸出吉住（北）交差点から南東方面〕を示している。

『戸出町史』には、「明治 19 年（1886）
【中略】 舟戸口用水より長さ 1,000 間（1,800 m）、幅二間（3.6 m）、深さ 5 尺（1.5 m）許りの新川を、1,000 円を費やして開鑿し、明治 26 年（1893）完工した。同年 8 月に入って旱天続き、灌漑水が干上がり、稲作凋枯収穫皆無の凶作になったが、新しい用水のおかげで吉住村は全くこの難局を免れ互いに喜びあった。そこで有志相はかって記念碑を、戸出、西部金屋往来に面し、用水をはさんで吉住村【中略】に建設した。」と、建碑された経緯が記載されている。

また、『戸出 400 年のあゆみ』には、石碑の写真が掲載されている。

Q：戸出竹の地名の由来を知りたい。

A：『戸出町史』によると、「【中略】竹村十郎義家という豪族が土着して付近を新開、用水を管理し界限の百姓を支配していたとの伝承がある。」「廃川地の開拓が進み村立の際、豪族竹村十郎義家の「竹村」の姓をとって竹村を称したと伝承されている。」と記載されている。

Q：線状降水帯について解説してある資料を探している。できれば、解りやすく図示されている資料が見たい。

A：『集中豪雨と線状降水帯』、『極端豪雨はなぜ毎年のように発生するのか』を調べる。

『集中豪雨と線状降水帯』では、「線状降水帯という用語は、2000 年頃から九州で発生する地形性の線状の降水システム（Kato, 2005）を対象にメソ気象の研究者が使い出した。」と記載されている。

『極端豪雨はなぜ毎年のように発生するのか』では、線状降水帯を形成する過程の 1 例としてバックビルディング型形成を解説している。これは、大雨をもたらす積乱雲が同じ場所に次々に形成される状態をバックビルディングと呼び、図と共に線状降水帯が形成される過程を解説している。解りやすい図示は無いが、『集中豪雨と線状降水帯』では、バックビルディング型と破線型の線状降水帯の解説が記載されている。

（櫻井 佑歩 記）



こんにちは、高岡の地域図書館です！

4つの館の活動をシリーズで順に紹介します。4回目は、**福岡図書館**です。

福岡図書館は昭和35年（1960）3月に農事センター（現在は福岡交番）2階で開館しました。昭和38年と昭和60年に旧役場庁舎に移転後、平成9年（1997）7月福岡町総合町民センター（現高岡市ふくおか総合文化センター）Uホール2階に新図書館をオープンしました。平成17年11月には高岡市と合併、高岡市立福岡図書館となって現在に至っています。Uホールは図書館のほかに体育館・文化ホール・フィットネスジムなどを備えた複合施設です。多目的に利用できる学びの場として福岡地域内外の方々に広く利用されています。

地域との連携

毎年3月にUホールでは「Uの祭典」を開いており、福岡図書館においても、保存期限の切れた雑誌や雑誌付録を提供する「リサイクル市」や、紙芝居・絵本の読み聞かせをしています。



◇ 人気の「リサイクル市」◇

地域の公民館には福岡図書館の新着目録を置いていただき、図書館利用者を増やす試みにご協力いただいています。

また、福岡地域の読書会には昭和57年に発足した「花野読書会」があります。富山県立図書館所蔵の読書会テキスト借用の仲介を行い、読書活動を支援しています。

学校等との連携

中学生の「社会に学ぶ『14歳の挑戦』」については、福岡中学校の2年生を受け入れ、書架や資料の整理のほかに、おすすめ本コーナーを作りPOP製作にも取り組んでもらいました。

地域内の幼稚園やこども園には、各園へ訪問して読み聞かせやおはなし、パネルシアター等を行う「訪問おはなし会」を平成11年から続けています。

また、希望する園には「団体貸出」も行っています。



◇ こども園での訪問おはなし会 ◇

その他の取り組み

カウンター前や児童コーナーでは常時テーマに沿った図書（一般書・児童書）の展示を行っています。

また、「おはなしの部屋」では毎週土曜日に絵本の読み聞かせや紙芝居を行い、参加者にシールを集めてもらうスタンプラリーも実施しています。

そして、毎年「こどもの読書週間」には、図書館員おすすめの本と、雑誌付録・文具をセットした「おたのしみパック」の貸出も行っています。



◇ おたのしみパックの貸出 ◇

（村本 雅美 記）

水清く緑豊かな高岡「ホタル群れ飛ぶ里」への願い

柔らかな小さな光を放ち、飛び交うホタルの群れ。6、7月は、高岡市内のあちらこちらで、ホタルの便りが聞かれます。

「螢」という言葉は、「日本書紀」の中に見られ、少なくとも奈良時代から、ホタルが、日本人と共にあったことが分かります。

明治時代、中田地区出身の小説家 三島霜川そうせんの小説「水郷」にも、次のような一節があります。

水の郷と謂はれた位の土地であるから、實に川の多い村であつた。(中略) 無量幾千萬の螢が、鞠のやうにかたまつて飛違つてゐる。それに此處の螢は普通の螢の二倍の大きさがある。それで螢の光で其處らが薄月夜のやうに明いのであつた。

たくさんのホタルが飛び交う幻想的な風景を想像することができます。

昔は至る所で、たくさんのホタルが見られました。しかし、昭和の高度経済成長に伴う工場排水の影響、田の圃場整備や農薬の使用により、水環境が悪化し、多くの地域でホタルが消滅していきました。

その後、水環境の改善や保護活動によって、ホタルが少しずつ復活してきました。その一つが、中田地区のホタルと言えます。

中田地区は、昭和45年(1970)ゲンジボタル、ヘイケボタルの生息地が「富山県天然記念物」に指定されたこともあり、今もホタル観察会や実数調査を行うなど、「ホタルの町」として知られています。

その頃から、中田中学校科学部では、ホタルの研究や水辺の環境調査に継続して取り組んでいます。平成7年(1995)には、PTA役員や教職員、地元住民が力を合わせ、中田中学校の中庭にゲンジボタル等を生息させようと「郷里の泉」を造設しました。

住民のホタルを守ろうという思いは、それにとどまらず、中田地区記念物保存会を中心に、旧六ヶ用水などの河川の環境整備、清掃活動、ホタルの見守り活動等を行い、町内各所で毎年ホタルが飛び交うようになってきま

した。

そして、平成16年(2004)には高岡市に全国ホタル研究会研究大会を誘致しました。たくさんのホタル研究者、愛好家が集まり、保護活動や研究について意見を交わしました。中田地区での観賞会では、「青々とした水田地帯でホタルが大発生するのは、きれいで珍しい」という声が挙がりました。一般的に、排水路ではホタルの発生は少ないと言われます。これは、中田地区が地下水層の高い湧水地帯が多いこと、そして住民の努力により水質が良好な状態に保たれていることの証であると考えられます。

6月中旬、私はホタル観察会に出掛けました。中学生がホタルについて説明を行い、その後、参加者は川面にホタルが舞う姿を見て楽しみ、心癒されてきました。一方で最近ではホタルを持ち帰る人、強い光でホタルを刺激する人がいて困るという話も聞き、心が痛みました。

ホタルは水質環境や水温等に左右される小さく、儚い存在です。そして、そんなホタルの生態系を守ることは、そこに住む人々の並々なぬ努力と愛情の成果だと感じます。これからもホタルが舞う姿を夏の風物詩として、楽しんでいきたいです。

ホタルを守ることは、美しい環境を守ること。これからも水清く緑豊かな高岡を継承し、守り続けていきたいものです。



【参考資料】

「中田写真誌 ～地域の歴史と文化を後世へ～」

中田地域生涯学習推進協議会

「水郷」三島霜川選集(上巻)

「湧き水の恵み ゲンジボタルの観察記録と地域環境整備の実現」 水上哲夫著

「きねんぶつ NO. 3」中田地区記念物保存会

「全国ホタル研究会誌 第37号」

(石浦 智恵 記)

お知らせ



令和×万葉
TAKAOKA

行事予定(変更になる場合があります)

中央図書館

- えほんのじかん 毎週火～金曜日
(休日を除く)
午前11時～15分程度
- えほんの広場 毎週土、日曜日、休日
午前11時～30分程度
- 土曜おはなし会 午後2時～2時30分
- 第1土曜日 高岡おはなしの会
第2土曜日 図書館ボランティア
第3土曜日 チルドレンズシアター
(高岡第一学園
幼稚園教諭・保育士養成所/年4回)
- 第4土曜日 人形劇団どんぐりコロコロ
第5土曜日 劇団「喜び」
- 高岡婦人読書会 毎月第3水曜日 午後2時～

伏木図書館

- こども読み聞かせ会 毎週土曜日 午前11時～
古典の会 毎月第2日曜日 午前10時～
読書会 毎月第3土曜日 午後1時30分～

戸出図書館

- こども読み聞かせ会 毎週土曜日 午前11時～

中田図書館

- 子ども読み聞かせ会 毎週土曜日
午前10時30分～

福岡図書館

- おはなしの部屋(読み聞かせ等) 毎週土曜日
午前11時～

最新の実施状況は、図書館のホームページを確認するか、お電話などでお問合せ下さい。

〔古文書関係の事業〕

○古文書解説事業

中央図書館所蔵の古文書を解説し、『高岡市史料集』として発刊します。

○古文書を学ぶ会

中央図書館所蔵の古文書をテキストとして、近世の高岡の様子を学びます。今年度は、「町方諸役人の勤方と金沢登城儀礼」をテーマに取り上げ、年4回開催します。

午前10時～11時30分

(受講受付は締め切りました)

○高岡市史料集解説講座

今年度は、11月18日(土)に開催予定。毎年3月発刊の『高岡市史料集』の解説文に基づき解説します。「市民と市政」11月号などをご覧ください。

〔学校との連携事業〕

子どもの読書活動推進の一環として、高岡市内の小・中・義務教育学校、特別支援学校との連携を更に進め、次の事業を展開しています。

①わくわくブックトーク

図書館職員とボランティア会員が小学校等を訪問し、低学年の児童を対象にブックトークを実施します。

②図書館ツアー事業

児童を中央図書館に招待し、施設の機能や使い方について説明します。

③ふるさと高岡巡回文庫

高岡ゆかりの人物の関連図書を小学校等に巡回させ、ふるさと高岡への愛着心を育みます。

④学校における個人貸出

団体貸出に加え、児童や教員が学校図書館を通じて中央図書館の本を借りられます。

「高岡の魅力発信 デジタルアーカイブ事業」

中央図書館が所蔵する江戸期以降の郷土史を知るのに貴重な古文書や写真をアーカイブ化し、ホームページ上に公開しています。アクセスし易くすることで、高岡の魅力を再発見し、次世代につなげます。

高岡市立中央図書館	〒933-0023 末広町1-7	TEL (0766) 20-1818	FAX (0766) 20-1819
高岡市立伏木図書館	〒933-0104 伏木湊町13-1	TEL (0766) 44-0073	FAX (0766) 44-0073
高岡市立戸出図書館	〒939-1104 戸出町3-19-29	TEL (0766) 63-1254	FAX (0766) 63-1254
高岡市立中田図書館	〒939-1272 下麻生1108	TEL (0766) 36-0054	FAX (0766) 36-0054
高岡市立福岡図書館	〒939-0132 福岡町大滝44	TEL (0766) 64-1034	FAX (0766) 64-1038